



医学部だより

第6号

2004.7.1

巻頭言

体力が資本！

医学部長 曾根三郎



平成16年度よりスタートした国立大学法人化は特に混乱もなく大きな第一歩を踏み出しています。同時に、蔵本地区の生命科学系大学院の統合がなされ、医歯薬栄養の教職員が新しく設置された大学院ヘルスバイオサイエンス研究部に所属し、医学部は学生の皆さん方を主体とした組織となっています。将来の医療を

担う人材を蔵本地区全体で協力し、それぞれの専門性を高めながらも医療人として共通の体験や知識を共有するための統合医療教育カリキュラムを開発していく予定です。自立的精神を持って大学間の熾烈な競争に勝ち残っていくためのまさに初年度ということが言えます。

この4月に医学部へ入学された280名の学生諸君は大きな夢と期待をもって毎日過ごされていることと思います。教育カリキュラムも平成14年度から新しくチュートリアル教育、クリニカルクラークシップが導入され、少人数によるグループに分かれて見学型から参加型の教育システムへと大きく変革されています。コンピュータールームや医療技術を学ぶための臨床技能システムも備わり、スキルラボの充実も図られており、自習時間をしっかり持って勉学に励んで頂くために蔵本分館図書館も開館時間を午前0時まで延長しております。学生の皆さん方が立派に育っていく環境を作っていくのが、教職員の役目だと考え努力をしております。

学生の皆さん方へのアドバイスとして、学生時代には是非ともやって頂きたいのが「学問のすすめ」というより「スポーツのすすめ」です。将来、医療人として病気で苦しむ患者さんの診療に当たるには自らが健康でなければ十分な活動が出来ないことは言うまでもありません。また、医学、医療の進歩は目を見張るものがあり、医療の場では多くの情報が溢れ、的確な判断と迅速な対応が求められています。総合的な判断力と的確な決断力を身に付けるにはやはり、自らが心身ともに健康であることが大前提です。先進医療を常に理解して患者さんに還元していくには生涯にわたり新しい知識を身に付けていく学習努力が求められますが、それ以上に健全な肉体を維持していく努力も生涯続けていくことが大切です。将来、研究者として国際的な競争に打ち勝っていくためにも資本は健康です。医学部では皆さんが体力アップを図れるグラウンド整備や部活動施設の充実に

向けて取り組んでいきます。

人生を有意義に過ごすには、常に夢をもつことだと思えます。もちろん、社会人になってからも同じことが言えます。私は日本経済新聞の「私の履歴」の欄を読むのが楽しみです。社会的に大成され、功を成した人たちが過去を振り返り、回想する内容ですが、共通して言えることはやはり夢と希望を常に持たれチャレンジされている点と素晴らしい人との出会いを大切にされている点だと思えます。夢とか希望がない所に新しい挑戦や経験の蓄積はありませんし、期待のない所には何の喜びも感動も出てきません。夢があるからこそ目標を立てて実践し、結果を出すために努力をするのだと思えます。しかし、大切なことは結果ではありません。結果を出すためのプロセスが最も大切で、多くの人たちとの出会いがあり、挑戦があり、いろんな経験が蓄積されればされるほど、充実した内容となり、結果は自ずからついてくるものだと思います。人との出会いは人生の中で最も大切な要素であり、特に若い時にいる人との出会いはサークル活動であれ、ボランティア活動であれ、対価を求めることなく、理想を追っていく中での出会いは特に大切です。情熱のぶつかり合いの中で生まれる友情は生涯にわたり長く続くものだと思います。また、教育・研究を通しての教職員との素晴らしい出会いも人生の方向を変えてしまう契機になるかもしれません。そのためには目標をもってぶつかっていくことだと思えます。医学部の特色は各教員が先端的な医学研究に絶えず取り組んでいることであり、夢と情熱を持って学生時代から研究室へ出入りすることも大きなステップとなります。

出会いを一つの節と考えますと、数多くの人との強烈な出会いはまさに竹の節のように数が多くなり、ちょっとした事では折れない強靱な竹に育っていきます。人生をしっかりと生きることはそのような節をたくさん作ることに通じるかもしれません。そのためには皆さん方が切磋琢磨しているような場面で挑戦し、頑張ってくださいだと思えます。類は友を呼ぶと言われますが、自然に同じ発想を持つ人の輪が出来、時間を越え、空間を越えて広がっていくものだと今でも実感しています。

今回より、「学遊抄」という題目で、医学部の教員の方々へに学生時代のいろんな経験や教訓を回想して書いて頂く欄を設けました。皆さん方に少しでも役立てばと希望しております。

学科ニュース

*** 医学科から ***

原点に戻って考える - 大学の主人公は学生である

医学科長 福井 義浩



4月から大学院ヘルスバイオサイエンス研究部が発足し、医学科の全教員が研究部所属となりました。大学教員の本務は研究活動であることが組織上からも明確になりました。このような時代に我々教員に要求されるのは、高度な研究を遂行することと高度先進医療に対応することです。しかし、医学科の学生教育を行い、研究者としての実績に基づいて大学院生の研究指導をすることになら変わりはありません。今回の組織変更で我々教員の教育に対する責任が減った訳ではありません。生命科学の進歩、高度先進医療の発展によって、医学生には高度な専門知識の習得と高い倫理性が求められています。

新しいことに自ら積極的にチャレンジできる能力、精神力、体力、どんな状況に陥っても的確な判断が行える能力が必要です。

大学とは何か、原点に戻って考えることが今こそ重要になっています。言うまでもなく大学の主人公は学生です。学生がよりよい環境で伸び伸びと自発的に学べる環境作りを行わなければなりません。新講義棟の建設、講義室・実習室の改修工事も計画されています。アメニティーを改善し、教育環境を整備し、無駄のないカリキュラム、充実した講義、実習、チュートリアルを行うことが医学科教員に課せられた義務であります。さらに学生が自主的に勉強できる場の確保、研究室配属、実践医学実習等の時間を増やすことも重要ではないかと思っています。

*** 栄養学科から ***

栄養学科の新しい体制のスタート

栄養学科長 中屋 豊



栄養学科では、従来の講座制が少し変化し、研究室はすべてオープンになりました。お互いの研究室間の交流が増え、COE(トップ30)も採用されたことより研究も順調に進んでいっています。1講座あたりの英文論文数も大学内の各学科間では一番多くなっています。独立行政法人化以降、経済面で厳しくなる中、栄養学科の各研究室は研究資金の獲得に努め、このチャンスを逆に生かして、もっといい研究ができるようにと前向きに考えています。

本年度から歯薬業栄養の統合大学院大学(ヘルスバイオサイエンス研究部)となり、大学院は栄養生命科学教育部として、独立した部局になりました。大学院生も増え、さらに研究に力が入っています。さっそく今までの大学院の制度を見直し、よりよいものに早急に仕上げようと考えています。

学部学生にとっては講義室の完備が待たれます。現在は狭い部屋やジブシー生活を強いており、一日も早く学生にいい学習環境を与えることが急務と考えておりました。曾根学部長などの協力により新しい講義棟が本年作られる予定となっています。これでやっと懸案となっていた問題が解決します。

学部学生の栄養の教育については、新しい制度が適応された学年が3年生となりました。4年生は主に教室配属の研究になるために、教育課程の変更は今年でほぼ完成します。今まで以上に臨床実践に力を入れ、実力のついた学生が育つように教員一同努力しております。これらの学生たちの将来のためにいい臨床実践教育に努めております。

最後に、最近の大きなニュースとして、大学の取り組みの一つとして科学の分野の超一流誌である Science 誌に栄養学科の研究である「ストレスと栄養」が大きく紹介されたことです。栄養学科の研究が認められたものと自負しております。

*** 保健学科から ***

学年進行3年目を迎えて

保健学科長 前澤 博



保健学科は4月に学年進行3年目を迎え、新たに第3期生124名と3年次編入生16名が入学し、全在生数は386名となりました。本学科初の3年次生の教育では、医療現場に即した臨地実習・実験などの専門教育課程が開始されます。また3年次編入生は、研究室配属によって一層専門性を高める機会が得られます。教員組織では新たに助手2名の就任がありました。教員組織の完成時期は当初の予定より遅れる状況ですが、学部教育の遂行および平成18年度の大学院設置に向け、教員が協力して対応したいと思います。

編入生の自己学習や来年度の卒業研究など学年進行に伴う学習環境の整備のため、学長裁量経費の支援を受け、各専攻からスペースを供出し学生自習室を設置します。卒業

研究の学生および将来の大学院生の居室やセミナー室、および講義室は不足する可能性がありますので、施設利用方法に工夫が必要です。平成17年度概算要求では保健学系総合実験研究棟改修をお願いしています。

大学院構想については、研究組織、カリキュラムなどの検討を進めています。

学科教育のあり方について本年3月に「看護実践能力育成の充実に向けた卒業時到達目標」(文科省検討会報告書)が示され、教育成果が今後強く問われます。

本学科教員は教育研究実績の向上を図り、科学研究費などの外部資金の獲得に努力しており、厳しい大学間競争の中で、特色ある保健学科の教育・研究を発展させたいと考えています。今後とも関係する諸先生、職員の方々のご支援、ご鞭撻をお願いいたします。

*** 保健学科から ***

保健学科の大学院構想について

保健学科・修士課程設置準備WG委員長 齋藤 憲



近年の医療技術の進歩や少子・超高齢社会に伴う保健・医療・福祉を取り巻く社会環境の大きな変動に対応するため、保健学科は平成18年3月の第1期生の卒業を控え、大学院修士課程の設置準備を進めています。保健学科の大学院は、“保健科学”という医学、栄養学の分野とは異なった視点で、高度化、専門化した現

在の医療環境の変化に対応できる医療従事者の育成や人々の生活の質を支援する看護学教育を目標としており、蔵本キャンパスに存在する大学院ヘルスバイオサイエンス研究部との連携を保ちながら、高度専門職業人や将来の教育・研究者の育成、独創的な研究活動の推進を行っていきたく

と考えています。

平成15年11～12月に実施した大学院進学へのアンケート調査では、本学科在学生の約60%の学生が大学院進学に興味を示しており、その内34%の学生は積極的に大学院進学を考えています。この背景には、現在、看護・医療技術系の大学院が全国でも少なく、特に医療技術系の大学院は四国には1校もない状況が影響していると思われます。保健学科の修士課程に対しては、仕事をしながら学べる環境や社会人の受け入れ、他大学～他学部との学术交流あるいは国際的な学术交流への学生の期待が大きく、保健学科の看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3専攻の教員が協力して、学際的な人材の育成に携わっていきたく思います。

21世紀COE報告

プロテオミクス解析室の設置

分子酵素学研究センター 谷口 寿章

医学系 COE「多因子疾患のプロテオミクス研究拠点」ではがんや糖尿病などの多因子疾患をプロテオミクスの手法を用いて解明することを目標としている。プロテオミクスは、細胞や組織に含まれる数千のタンパク質を一挙に同定し、解析する手段であるが、そこでは質量分析法が中心的な役割を果たしている。本学におけるプロテオミクス研究を推進するために、COE研究拠点形成の一環として、我が国で初めての最新鋭のフーリエ変換型質量分析計（FT-MS）を導入した。本装置はMRIやNMRと同様の超伝導磁石を利用したもので、これまで用いられてきた装置に比較して、精度、分解能、感度において桁違いの性能を示す。このFT-MSを中心にタンパク質リン酸化の研究に威力を発揮する三連四重極型質量分析計や、さらに質量分析データを用いてゲノム配列上でタンパク質を検索するための検索システム、試料情報からプロテオミクスデータまでをリレーショナル・データベースとして保存管理し、また情報抽出を可能とするデータ管理システム（LIMS）など、最先端の解析システムを揃えたCOEプロテオミクス解析室を整備した。また、先端医研の一部として、これらの装置を運用し、受託解析を可能とするための人材育成も開始しているため、今後COE研究プロジェクトのみならず学内外のプロテオミクス研究に広く利用していただける体制を構

築したいと考えている。なお、超伝導磁石から外部に漏れる磁場は微少で人体に影響は及ぼさず、さらに室外では全く問題はないが、ペースメーカー使用者はMRI室同様に入室できない。前室にカード類、腕時計を保管し、入室していただくシステムになっている。

今後の活動に御期待いただきたい。



フーリエ変換型質量分析装置



人材育成のための講習風景

21世紀COE報告

ストレス制御をめざす栄養科学

拠点リーダー臨床栄養学分野 武田 英二

水化物主成分とする高血糖ストレスを制御する機能的食品を開発した。

平成15年度の研究成果

- 1) 健常人のストレス、うつ病、慢性疲労症候群患者の遺伝子発現情報とバイオインフォマティクスからストレスを評価する有用遺伝子群を特定した。ストレスの評価法、うつ病の評価法、及び疲労の評価法を確立し、特許出願準備中である。また、ナノデバイスにより細胞から抽出したストレスバイオマーカータンパク質の高感度検出系を確立した。
- 2) 非環状テルペン化合物の断眠ストレスに対する抗ストレス作用を明らかにするとともにパラチノースを炭

平成16年度の予定

統合失調症のストレス制御に対する脂肪酸の臨床評価、ストレス関連ジストニアの責任遺伝子の機能解析、小児精神心理疾患患者の病態、ストレス評価のデータベースおよびクラスター解析を準備予定している。(平成16年4月2日発行のScience 304, 41, 2004で高い活動の事例として紹介されている。)トピックスを参照。

教務委員会から

教務委員長 佐野 壽 昭



全学共通教育が17年度に大幅な再編を実施することになっています。医学部としては、専門科目の理解と医療人としての教養の修得に役立つ、バランスの取れた共通教育を要望することにしています。医学科のチュートリアル、クリ・クラは今年4年目を迎えて、最初の卒業生を来春送り出します。臨床研修必修化に伴い他大学卒業生と混じり合う機会が多くなった医療現場でその成果を出せるか、注目しています。医学的知識と技術力の面において本学卒業生に見劣りはないと信じています。ただ、気がかりな点は、ゴミの放置や挨拶をしないなどのコミュニケー

ション技法以前の態度の問題です。心の通った医療という言葉が空しく響きます。こうした側面への対応も求められています。一方で新カリの制度疲労が出始めていることから、部会を活性化し、適切な軌道修正を図っていくことが必要です。この4月から「統合医療教育開発センター」が設置され、医学部における教育も蔵本キャンパス全体における医療教育の一環であるという視点が求められるようになりました。大学法人化で組織や制度に目が奪われがちですが、大学の原点は学生の教育です。地道な教育活動が教員個々に求められています。一層のご協力をお願いします。

学生委員会から

学生委員長 石村 和 敬



学生委員会は、大学における学生生活が円滑に営まれるように支援するための組織です。学生委員会の所掌事項は、修学指導、課外活動、学生団体の指導監督、就職活動、表彰及び懲戒、奨学金、身分異動、運動場、テニスコート等の施設使用、集会、出版、掲示等、その他学生生活に関する事で、つまりは、正課外のこと全般のよろ

ず相談係です。ちなみに、正課（勉学）についての担当は教務委員会ですが、この二つの委員会は不可分の関係にあり、密に連絡をとりつつ学生諸君を支援する態勢を整えています。学生諸君は何かあったら学生委員に相談してください。学生委員は、医学科が六反、西村、荒瀬、石村、栄養学科が岸、山本、保健学科が竹内、近藤の各教授です。委員が見つからない時は学務課に来てください。

医科学教育部から

教育・研究委員長 佐々木 卓 也



この4月より医学研究科は大学院ヘルスパイオサイエンス研究部に再編されて医科学教育部として生まれ変わり、我が徳島大学もかろうじて大学院大学と名のれるようになりました。医師過剰時代となった今、医学部への社会の批判は厳しく、国も独立法人化という名のもとに医学部を医師養成のみを目的とする医学専門学校と大学院をベースとした高度先進医療を研究開発し、推進できる大学の2つに分けようとしており、少し気を抜けば、地方の大学は前者の道を選ばざるを得ないという厳しい時代を迎えています。何とか肩書きだけはできましたが、大学院の定員を充足させるのにも四苦八苦というのが現状です。こういう時こそ、私は、がんばる気持ちを大切にでき

る大学であって欲しいと思います。明らかにあまり時間をかけていないような学位申請書を平気で出してくるような子は落としましょう。がんばらないやる気のない子は大学をやめてもらいましょう。私が動物実験施設でよく見かけるある臨床講座の大学院生の数人は、いつも一生懸命実験していますし、また、そばを通ると挨拶もしてくれ（私にだけでなく、うちの大学院生にも）本当に気持ちがいいです。私は、こういう若い子達に大学の将来を託したいし、また、こういう子達をしっかりサポートする大学であって欲しいと思います。Scienceに青野学長の写真がのりましたが、離れ小島のちっぽけな大学とまで書かれているのですから、奮起してがんばるしかないでしょう。

医・歯・薬・栄養学の統合 統合医療教育開発センターの発足

統合医療教育開発センター長 玉置 俊 晃

徳島大学蔵本キャンパスでは、平成16年4月1日より医学研究科、栄養学研究科、歯学研究科、薬学研究科が統合されて大学院ヘルスバイオサイエンス研究部が発足した。これを契機に、徳島大学医療系学部では医療人育成教育改革を充実させ、全人的医療が実践できる医療人を育成するための実施本体として統合医療教育開発センターが設置され専任教員が配置された。

統合医療教育とは、医療系学部・学科の枠を越えて様々な医療分野の教員（医師、歯科医師、看護師、栄養士、薬剤師など）を活用して、人間愛にあふれる各職種の医療人を育てるための教育である。従来の研究組織による縦割り型のカリキュラムではなく、学部から大学院まで一貫した、学生の視点から学習効果を高めることを最優先に考えたカリキュラムを導入する。また、問題解決能力を開発し自学自習の習慣をつける

ことを目的としたチュートリアル教育を実践する。さらに、将来異なる職種の医療人になる学生がともに学ぶ過程をあらかじめ組み込んでおけば、医療の場で異なる職種の医療人が連携協力して業務を遂行することが容易になる。

統合医療教育開発センターでは、人間性・社会性・倫理性などを身につけ、他職種を理解し、医療の対象者や共に働く人々に尊敬の念をもてる人材を養成するための共同実習カリキュラムを導入する(図-1)。また、地域医療・福祉施設や行政機関との連携を強め徳島大学での医療人育成教育を充実させるのみならず、地域の医療人の生涯教育に貢献するとともに、統合医療教育の成果を広く発信する。さらに、新しい医療人育成教育方法の開発と人的資源の開発を行うことも、統合医療教育開発センターの重要な役割である(図-2)。

図 - 1

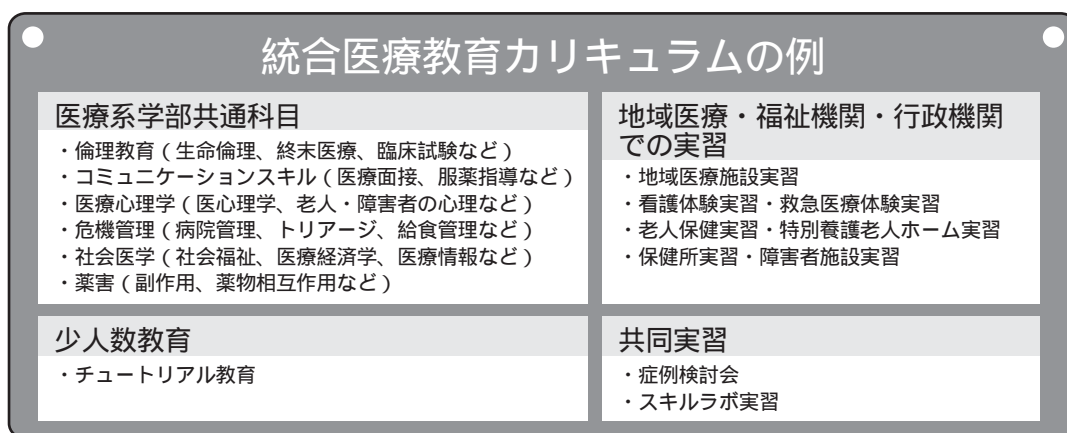
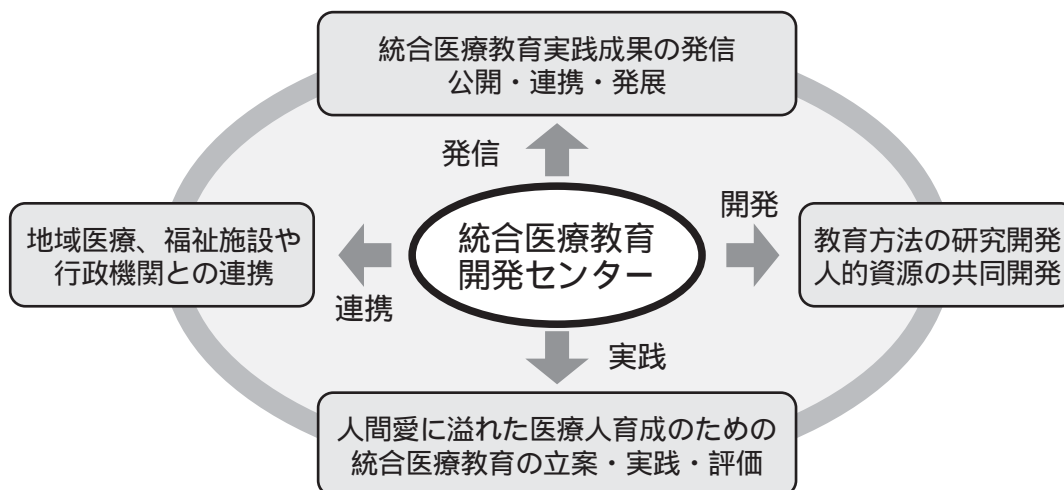


図 - 2



卒後臨床研究必修化スタート！

卒後臨床研修センター長 松本 俊夫

1. 徳島大学病院の研修プログラムとマッチング

今年度より初期臨床研修が必修化され、全国マッチングが施行されました。徳島大学病院では管理型プログラムとして大学病院と協力病院で1年ずつ研修する3パターン、他病院の管理型プログラムへの協力病院として大学では最初又は最後の6ヵ月間のみ研修する2パターンの合計5パターンの多様なプログラムを設定して臨みました。その結果、徳島大学病院管理型プログラムに46名、他病院への協力病院プログラムに15名の合計61名の受け入れが決定しました。

2. 卒後臨床研修カリキュラム

今年度は医師国家試験成績が4月22日に発表されたため、4月中は新規研修医への講義と実習からなるオリエンテーションを行い、5月から本格的な研修を開始しました。このため今年度に限り、元来24ヵ月と規定されていた研修期間の若干の短縮は、到達目標が達成される事を条件に容認され、最初の6ヵ月間の予定であった内科又は外科・救急研修を5ヵ月間に短縮することが急遽決定されました。新臨床研修カリキュラムでは、内科及び外科ともに従来の講座別の教育を廃し、期間内に全ての小診療科の症例を経験できるよう小診療科を統合した画期的な研修プログラムに基づく研修が行われています。

3. 卒後臨床研修の評価システムと指導医養成

卒後臨床研修プログラムによる研修の評価にはUMINネットワークを利用したオンラインの全国共通評価システムであるEPOC (Evaluation system of Postgraduate Clinical training)を導入し、その運用を開始しています。更に、臨床研修指導医のFD (faculty development)の一環として、3月6日と4月24日に「研修医との接し方、指導法を考えよう」というテーマで卒後臨床研修指導医セミナーを開催し、更に臨床研修プログラム責任者の指導能力の向上を図ることを目的に「臨床研修開発」というテーマで開催される平成16年度プログラム責任者養成講習会にも、卒後臨床研修センターから北川教授、武田教授、内科から松下助手が参加申し込みし、指導医養成にも力を入れています。

4. 卒後臨床研修センターの活動

この他、卒後臨床研修センターでは研修医室・ロッカー室を新たに整備し、ほぼ全ての研修医が使用できるデスクを整備すると共に、毎週木曜午後7時から研修医室に於いて研修医教育セミナーを開催するなど(写真1)研修医教育体制の整備も進めています。また、PHSを全員に配布したほか、メールによる通知に加え卒後臨床研修センター前に掲示板を作成し(写真2)研修医に向けて常に発信できる情報伝達システムの整備を進めています。

このように、従来の研修とは全く異なる初期臨床研修がスタートしましたが、卒後臨床研修センターでは病院長を始め関係各方面の全面的な協力を得て、新たな研修医が徳島大学病院で快適かつ充実した研修を受けられるよう今後とも努力して行きたいと思っております。卒後臨床研修センター委員及び事務担当者名簿は表の通りです。これからも卒後臨床研修に関するご要望やご意見がありましたら、是非ともセンターまでお寄せ頂きますようお願い致します。

徳島大学病院卒後臨床研修センター委員名簿

役職名	氏名	職名	所属	内線
センター長	松本 俊夫	教授	内科	2300
副センター長	上野 修一	助教授	精神科神経科	2316
研修計画専門委員会委員長	北川 哲也	教授	心臓血管外科	3620
" 委員	西村 匡司	教授	救急部	9425
"	谷 憲治	助教授	内科	9271
"	森 一博	講師	小児科	2321
研修評価専門委員会委員長	武田 憲昭	教授	耳鼻咽喉科	2370
" 委員	寺嶋 吉保	講師	外科	2328
研修協力専門委員会委員長	苛原 稔	教授	産婦人科	2380
" 委員	加藤 真介	助教授	整形外科	3241

センター事務担当 総務課専門職員 山下 進
(内線 9359) 事務補助 高田ひろみ
河波 陽子



◀写真1



写真2▶

新しい SPF マウス飼育室を開設

先端医療研究資源・技術支援センター
副センター長 松本 耕三

先端医療研究資源・技術支援センター内には「ヒト疾患動物資源研究開発部門」があります。実際は従来の動物実験施設がその本体なのですが、最近の動きを少しご紹介します。

1. 改修工事終了

動物実験施設では近年の遺伝子操作動物等、多数のマウス利用増大に伴い、従来のスペースでは手狭となっていました。それらの研究を支援するためはどうしてもより広い SPF 動物飼育室が必要です。そのため2階一部の改修工事が必要でした。改修経費は約1,500万円。今回は幸いにも、学長裁量経費をいただき、無事改修を終えることが出来ました。19ラック、ケージ数にして約900ケージ収容可能スペースを確保しました。

今後、ラックとケージ等の整備に約2,500万円が必要です。すべてを動物実験施設で賄うことは無理ですので、カーテン式アニコンシステム等と10ラック分を施設がもち、そこはどなたでも利用出来ます。一方、残り9ラックを公開講座等の専用ラックとして購入を依頼しました。1ラッ

ク当たりの経費はケージ込みで約90万円と高価でしたが、現在5ラックまで予約がはいりました。残り4ラックです。なお、7月初頭から利用可能となりますので、ご利用下さい。

2. 肥満と糖尿病の再構成モデル動物の開発

部門名にもあるように、モデル動物の開発を施設の生き残り戦略の一つの目玉にしていこうと考えています。肥満や糖尿病原因遺伝子探索が中心ですが同定されれば創薬にもつながり、企業との共同研究も可能となるものと期待しています。その内容はこの5月末、東京で開催された「第3回国際バイオ EXPO」で発表し、非常に多くの聴衆を集め、関心の高さを確信しました。

3. コ・ラボの設置

酵素研の木戸先生の研究プロジェクトの一つとして施設2階に「生体防御機能解析室」が設置されています。改修費と内部設備等、多大な経費がかけられ、大変立派な解析室です。

教育支援センター（旧医療教育統合支援センター） 新しい教育モデルの開発

教育支援センター(旧医療教育統合支援センター)
副センター長 西角 彰 良

2001年からスタートした医学科の新カリキュラムは、3月25日に講演いただいた三重大学教務委員長の津田司教授(総合診療部)から、「全国的に見て大きく遅れていた徳島の医学科教育を短期間で一気に改革先進校に追いついた意欲的な内容」と大変お誉めいただきました。しかし、4年目となった現在も「チュートリアル」や「クリニカル・クラクシブ」は、まだ内実が十分には伴っていません。昨年度9月開設の「スキルラボ」も、まだ十分利用されていない状況です。

4月に新設された「統合医療教育開発センター」(通称:開発センター)は、蔵本地区全体で基礎的な共通部分は統合して、コミュニケーション、医療倫理、チーム医療などの新しい教育モデルを開発する構想です。この開発センターと協力して、医学部教育支援センター(通称:支援センター)は医学部教育改革を一層内実あるものにしてゆきます。

大学間競争では、良い教育を行う大学・学部であるという評価が必須です。今後ともご理解ご協力お願いいたします。

附属図書館から

column

蔵本分館の開館延長について

蔵本分館長 泉 啓 介

試行ではありますが、6月1日から蔵本分館の時間外特別利用を蔵本地区の学部学生にも拡大しています。申し込みをすれば祝日等の休館日を除いて、週末も午前0時までは学生証で入退館できますので大いに利用してください。これまで大学院生や教員(旧教官)は24時間利用できたわけですが、各学部の教員や学生から、学部学生も図書館を24時間利用させて欲しいという要望が出てきました。冷暖房完備で有人開館となりますとかなりのコストがかかります。今回の「土日も午前0時まで」という措置はあまりお金をかけずにとりあえず学生に図書閲覧室を勉強部屋として利用させようというものです。

特別利用時間にはコピー機の私費利用はできません。図書

の貸出はできません。2階での飲食、午前0時以降の利用、申請者本人以外に利用させる、といった違反が起こった場合はこの措置そのものをやめにする場合もあります。照明のON、OFFを含め学生に任されています。利用の手引きをよく理解した上で他人に迷惑をかけないように静かに勉強してください。

図書館は研究者のためのものという方向にシフトしすぎたきらいがあると考えています。蔵本地区の学生のほぼ全員が何らかの国家試験合格をめざして1年生から勉強を始めるわけですから、いつでも勉強ができる良い環境を作ってやるのが大学として必要なことだと考えています。ご意見をお聞かせください。



Kuramoto Campus

就任のご挨拶



社会環境医学講座 予防医学分野
教授 有澤 孝吉

3月16日付けで大学院医学研究科・社会環境医学講座・予防医学分野教授に就任致しました有澤孝吉と申します。専門領域は疫学と環境保健です。社会医学の教育・研究および人材育成に、誠心誠意努力致す所存です。研究は、学内外との繋がりを大切に、環境要因（内分泌攪乱化学物質、重金属、ライフスタイル）とヒト集団の健康との関連をテーマに展開して行きたいと考えています。皆様方のご指導・ご支援をお願い申し上げます。



器官病態修復医学講座 臓器病態外科学分野
教授 島田 光生

“以和為貴”と“切磋琢磨”のキーワードで、チームワークと競争力の強い環境作りと、学生や若い研究者の良いところを最大限に伸ばし若き優秀な人材を徳島大学からより多く輩出することを使命と考えています。外科医は3Kと言われますが、3Kにもまして得難い充実感、満足感があります。本当の外科医の喜び、外科研究の楽しみを味わいたい若人が徳島大学へやって来るよう、また、社会に貢献する医学部のお役に立てるよう全力を尽くします。

Ambitious Young Surgeons!



先端医療創生科学講座 泌尿器科学分野
教授 金山 博臣

4月1日より先端医療創生科学講座・泌尿器科学分野を担当させていただきます。教育では、マンツーマンで学生・研修医・大学院生に関わり、人間性豊かな医師・優れた医学研究者の育成を目指します。研究では、泌尿器科悪性腫瘍の臨床に結びつくトランスレーショナルリサーチを積極的に行い、新しい診断・治療法の開発に努めます。臨床では、高いレベルの一般診療を達成し、高度先進医療・臨床試験を積極的に行い、近隣の病医院だけでなく他県からも患者さんが集まる信頼され期待される泌尿器科を目指します。ご指導の程お願い申し上げます。



保健学科 検査技術科学専攻
教授 香川 典子

保健学科検査技術科学専攻形態系検査学講座の香川典子です。徳島大学医学部医学科卒業後、檜澤一夫名誉教授のもとで神経・軟部腫瘍や各種骨格筋疾患の免疫組織化学的研究を行うとともに病理組織診断の研修を受けました。昭和63年に保健学科の前身である医療技術短期大学部に移り、臨床検査技師をめざす学生の教育に携わってきました。研究は人体病理学分野の佐野壽昭教授と共同で筋ジストロフィー剖検例における病理組織学的研究を行っています。来年、完成年度を迎える保健学科は、引き続き平成18年度の大学院設置を目指しています。より質の高い医療人の教育と研究に頑張りたいと考えています。どうぞ宜しくお願いします。



統合医療教育開発センター
専任助教授 寺嶋 吉保

「ヘルスバイオサイエンス研究部」に新設された「統合医療教育開発センター」の専任教員として6月1日発令されました。外科医の仕事と併行して、緩和ケアや医学科のカリキュラム改革に関与してきました。今後は、コミュニケーション、医療倫理、チーム医療など、従来の学部の枠を越えた統合医療教育の導入・運営・開発が重要な業務となります。大学の生き残り競争では、「よい教育をしている」という評価が必須です。「良い医療」を模索しつつ、ご相談に伺いますので、よろしくお願いたします。



事務部長 井上 展啓

本年4月1日付けで、事務部長に就任いたしました井上です。4月から法人化がスタートし国立大学は大きく変化をしようとしています。従来の文科省主体の大学運営から学長を中心とした大学の運営に変わり、しかも経営面を重視した改革・改善がもたらわれています。

事務部はこの難局に向かって一丸となり、努力をしておりますので、皆様方のご協力をよろしくお願いたします。



学部長補佐（財務管理担当）
岡田 浩一

法人化に伴い、「財務管理担当」として委嘱を受け就任致しました。言うまでもなく学部としてあるべき姿は、優れた専門的能力と進取の精神を身に付けた人材を育成すると言う本学の理念に基づく教育研究の場を提供することであり、その実現と学部発展のために、数値と言う観点からより有益な予算活用を目標として、企業感覚を取り入れた運用管理手法を用いた新しい仕組み作りに取り組んで参ります。皆様のご理解とご協力をよろしくお願致します。

医学部新後援会長ご挨拶

後援会会長 廣瀬政雄



この度、仁木敏晴前会長の後任として医学部後援会会長を務めることになりました。どうぞよろしく願いいたします。

近年、地域や社会の環境、特に若者を取り巻く環境が激変し、交通および情報通信手段の発達と普及により、若者の意識や行動に影響が現れています。これには良い面と悪い面がありますが、若者特

有の好奇心から事故に巻き込まれたり、薬物犯罪やネット犯罪などにかかわってしまうことも稀ではありません。特に注意してほしいと思います。

卒業後は医師、栄養士あるいは研究者として活躍することが期待されていますが、その職務における責任が大変厳しく求められるようになりました。一方で、最近の若者の

特徴として、コミュニケーション能力が低下しているといわれていますが、人を対象とする職業においては、このことはしばしば問題となります。自分達の世代の考え方や行動面での特徴を自覚して、期待に応えられるよう努めてください。

医学部における指導も最近の若者の特徴を踏まえたものになっていますが、後援会は医学部および大学院における勉学を中心として、入学から卒業までの学生のさまざまな活動に対して環境整備を行なっています(詳しい活動内容は仁木前会長の「医学部だより、第5号、医学部後援会」を参考にしてください)。徳島大学の教職員と後援会が協力して、学生の健全な成長を見守ってゆきたいと考えています。ご指導とご協力をお願いいたします。

白菊会新理事長ご挨拶

白菊会理事長 神野美昭



このたび、理事長職を務めさせていただくことになりました。私には医学上の知識もなく、献体運動のありかたについてもよくわかっていません。いささかおぼつかない思いですが、会員の皆様のお志や、医学の道を選んだ学生さんのご意志というものに学びながら、何とか任務を果たしたいと思っています。

私ごとで恐れ入りますが、二十歳代のとき、土曜日に苦痛を訴えた家族が月曜日午前には死亡するという体験をい

たしまして、それが命や人生を大切に人間の意志・活動の重要性を認識させてくれました。

自由とは必然への洞察なりという言葉がありますが、人間の幸せのためにはあらゆるものの根本を解明する努力が必要かと思えます。ボランティアとしての献体が、体のすべてを知るための教育に生かされると同時に、目で見える範囲を超えて、人間の尊さを学ぶことに生かされることを確信しています。

皆様のアドバイスをお願いいたしましてご挨拶いたします。

トピックス

徳島大学のCOE獲得がサイエンス誌上で紹介される

日本の89国立大学が4月から国立大学法人に移行し、新しい時代に突入したことが国際的な学術雑誌SCIENCE(2004年4月2日発行、304巻:41ページ)で取り上げられた。その中で、徳島大学が四国の小さな大学であるにもかかわらず、文部科学省から21世紀COEプログラム(卓越した研究・教育の拠点)を2件獲得するなど戦略的に成功している大学であると青野学長の顔写真入りで紹介された。

(福井 義浩)



第一臨床講堂のリフォーム着手!

医学部長 曾根三郎

本学医学科卒の会員ご遺族から寄付された医学部教育研究振興基金をもとに、第一臨床講堂の全面的なリフォームを行うべく計画をしています。本講堂は昭和46年に建設され、その後30数年にわたって臨床医学教育の場として数多くの学生に利用されて来ましたが、室内の老朽化は避けられず、IT化に向けた環境整備も遅れておりました。今回のリフォームにて学部学生のみならず大学院生に対する医学、医療に関する統合教育の実践の場としても活用できるように快適な講義室に整備する予定であり、この9月の完成を目指しております。

「名義貸し」にならないために

医学部長補佐（組織運営担当） 久保 真一

「名義貸しとは、保険医が勤務せず、保健医療機関に保険医の名義を貸すこと。これには、常勤として勤務せず、管理者たる保険医または常勤の保険医になっている場合を含む」と定義されています。言い換えれば、勤務していない、または勤務していたとしても常勤でない医療機関の保険医になっていることです。非常勤で医療機関に勤務する場合には、その医療機関の保険医に安易にならないように注意して下さい（診療報酬不正請求という違法行為に加担する可能性があります）。また、非常勤で勤務している医療機関が

ら健康保険証の交付をうけることは健康保険法上問題があるばかりでなく、その医療機関に常勤として勤務しているかのような誤解を受ける（名義貸しと疑われる）ことにもなります。

非常勤職員として医療機関に勤務する際には、先に述べた不正に陥らないよう雇用実態と条件に注意して下さい。（注：常勤とは、勤務時間が常勤職員の2/3以上の勤務実態がある場合）

新入生合宿研修風景

平成16年度の新入生合宿研修が、医学科・栄養学科は4月9・10日、保健学科は10・11日の日程で、牟岐少年自然の家で行われました。飲酒や喫煙の害の話、体育館でのゲーム、島巡りなどで楽しく、有意義な時間を過ごしました。

（石村 和敬）



MD-PhD コースに入学して

分子酵素学研究センター遺伝制御学部門 岩名 沙奈恵



これを書いている時点で、院生としての生活が始まり早くも二ヶ月が経とうとしています。生化学実験の常識を教わりながら実験する日々の中で、実験に費やす時間の膨大さを改めて実感しています。先日、学会にも初めて参加させていただきました。シンポジウムでは演者の先生方の講演を聴くことが出来、生の声を聴くという教科書を読んでの勉強とはまた違った経験が出来ました。また同じ

世代の方達の研究発表を聴くことも、よい刺激になりました。基礎をしっかり積んで研究をしようという決意を新たにしました。近い将来の目標は、目的とする研究に向かう道筋をひとりで描けるようになること、そして今の目標は、実験原理の基礎的知識と手技を習得すること、生じた疑問を翌日まで残さないことです。日々の積み重ねのうえにある将来を見据え、毎日小さな目標を達成していきたいと思えます。

*** 中田 賞 ***



第50回医学科卒業生
（平成16年3月卒業）

岡村 和美

この度は、中田賞という名誉ある賞を頂くことができ、大変光栄に思っております。

私は、現在徳島大学病院において、研修医として働いておりますが、不慣れな事や、日々現れる疑問に対処すべく、毎日大変苦勞しています。早く一人前の臨床医になれるよう、1日、1日を大切に努力していきたいと思っております。

*** 児玉 賞 ***



第37回栄養学科卒業生
（平成16年3月卒業）

齋藤 聡美

児玉賞受賞にあたり、4年間をこのような形で評価していただいたことに対して大変感謝しています。

現在、私は徳島大学大学院栄養生命科学教育部に進学し研究を行っています。受賞を励みとし、この賞に恥じないよう、努力していきたいと思えます。

医学部行事予定

7月25日 西日本体育医科大会（8月12日 まで）
8月6日 徳島大学学部説明会（オープンキャンパス）
10月20日 白菊会会員と医学・歯学部学生との懇談会
解剖体慰霊祭

10月30日 大学祭
11月1日 徳島大学開学記念日
11月2日 遺骨返還・感謝状贈呈式
12月10日 解剖体納骨式・追悼式

学遊む

「沖縄・板門店・サンアントニオ」

病態情報医学講座情報伝達薬理学 玉置 俊 晃

私の学生時代は、旅を抜きには考えられない。北海道から沖縄まで、時間を作っては、サイクリングや徒歩による貧乏旅行を繰り返した。きっかけは1年生の夏休みに参加した沖縄での無医地区検診であった。当時、沖縄は未だ日本ではなく、パスポートと予防接種証明書のイエローカードを持っての訪問であった。飛行機は高値の花であり、選択の枠には入っていなかった。国鉄で岡山・福岡を経由して鹿児島に行き、すし詰め小さな船で那覇に着くまで4日間以上かかったように記憶している。ドル紙幣、右側通行、巨大なビーフステーキ、小山のような体躯の米兵、赤線、等、これまでの私の日常との差に頭の中が混乱しているうちに、この刺激的な旅は終わった。

その後日本各地を旅したが、全くの異文化に触れてみたいとの思いが募った。多くの不安を抱えながら、1年生の終わりの春休みに、自転車で韓国の旅を決行した。多くの韓国人の親切に対する感謝と文化や政治状況の違いによる多くの偶発的なハプニングの毎日であった。板門店へは、生命の保証はしないことに合意する誓約書に署名し、重装備した米軍ジープに護衛されての訪問であった。高度経済成長と平和ぼけしている日本では経験することのない緊張感を味わった。この旅が終わり、

自分の生活習慣や思想や文化と全く異なる世界でもう少し長く生活してみたいとの思いが心の中で芽生えた。しかし、海外留学などは旧帝大の超エリートか大金持ちのぼんぼんのみに許されるものであろうとの思いが強かった。せめて、国内の知らない街を旅しようとする自転車の旅を続けた。多くの仲間が国家試験の準備をしていた6年生の夏休みにも1月間の旅をした。この時の思いが、基礎での研究、米国サンアントニオでの留学生活につながったように思われる。今も、基礎研究を続けながら世界の街々をうろろしている。

旅の途中に出くわした多くの難問に、時に真剣に時には半ばやけくそで解決方法を模索していたように思う。今となって振り返ると、問題解決型の学習を繰り返していたのだろうか？寺山修司は、「書を捨てよ、町へ出よう」と言った。大学の中で学ぶことは大切だが、大学の外で学ぶことも沢山ある。



<八幡平にて>

数字で見る医学部

入学試験

- 医学科
- 栄養学科
- 保健学科

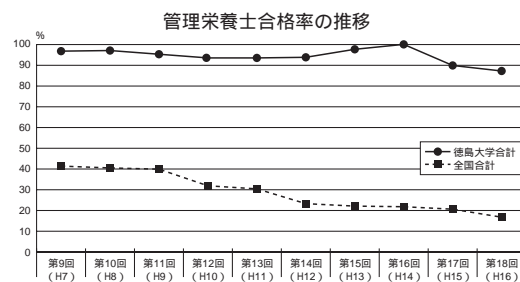
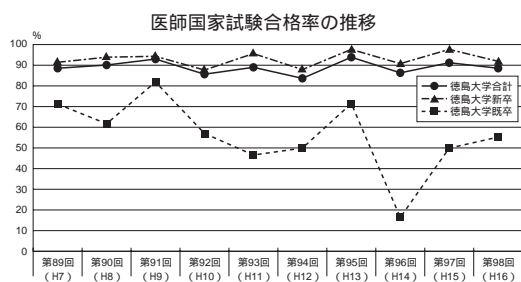
平成16年度入学試験実施状況結果については、別表のようになりました。男女比率、現役率等は各科によって特色があります。めでたく合格し、入学した学生諸君の益々の活躍を期待しています。
(安井 夏生)

徳島大学医学部入学試験受験者・合格者数(平成16年度)

	定員	志願者	受験者	合格者数	男	女	県内	県外	現役	一浪	その他	入学辞退
医 学 科	95	709	361	96	66	30	32	64	42	34	20	1
栄 養 学 科	50	320	180	55	7	48	18	37	45	9	1	2
保 健 学 科	看護	70	421	1287	76	8	33	43	57	13	6	6
	放射	37	170	123	40	28	12	28	30	7	3	3
	検査	17	93	65	24	11	5	19	12	8	4	7

国家試験合格率

- 医学科
- 栄養学科



科学研究費獲得額

最近5年間をみますと医学部(保健学科は除く)での科学研究費の獲得額は、平成11年度約1億8千万円、平成12年度は約2億8千万円、平成13年度は約3億円、平成14年度約3億4千万円、平成15年度は約4億円、と順調に増加しています。

(玉置 俊晃)

節約キャンペーン2004

医学部長補佐(組織運営担当)久保 真一

国立大学法人となり、大学(各部局)がその財務の責任を負うことになりました。また、その財務は一層厳しいものとなっています。そこで教職員一人一人に、日常の業務の遂行にあたりコスト意識をもって行動してもらうよう「節約キャンペーン2004」と題してキャンペーン活動をするようになりました。身近なところから始めようと節電・節水、ペーパーの再利用、空調の温度設定の徹底などに取組むことになりました。エレベーター、電源スイッチ、コピー機、トイレ等に節約シールを貼っています。教職員、学生の全ての構成員の皆様の協力をお願いいたします。



写真で見る 医学部



解剖体慰霊碑

徳島大学解剖体慰霊碑は、1985年に空充秋氏によって制作されました。高さ約3mで宇宙の五大元素(地水火風空)と心の働き(識)を表現しています。毎年12月に学生と教職員が集まり慰霊碑前で追悼式を行い解剖体慰霊をしています。(一柳 愛)



中田篤郎博士の記念碑

図書館蔵本分館の南側に阿波青石で作られた中田篤郎博士(1884 - 1952)の記念碑がある。記念碑の正面には中田博士のレリーフ像と「学者如登山」の銘が、背面には「中田篤郎之碑」が見える。現在の形の記念碑は1964年の医学部創立30周年を記念して建てられたが、「中田篤郎之碑」はすでに1953年に医学部正門の広場にあったものである。中田博士は徳島大学の礎となった人物である。徳島大学の前身である徳島医学専門学校(1943)徳島医科大学(1948)の創立に尽力し、1949年に開校した徳島大学の初代の学長ならびに初代医学部長を努めた。専門分野は法医学であった。中田賞は中田博士のご遺族の遺志に基づく。戦中、戦後の時代に大学創立に全霊を捧げた中田博士の大学人としての気概、志は徳島大学医学部50年史(1993)に詳しい。(佐野嘉昭)

編集後記



4月から広報委員が一部入れ替わり、新メンバーで編集作業を行っています。初代委員長の久保真一教授、前委員長の武田憲昭教授のご努力で毎号充実した記事が掲載できるようになりました。今号から「写真でみる医学部」、「数字でみる医学部」欄を設けましたのでどしどし投稿をお願いします。大学院ヘルスパイオサイエンス研究部が4月から発足し、研究部だより(主として大学院生、教員向け)も発行されることになりました。医学部だよりは発行時の編集方針を再確認し、医学部学生、保護者の方々に積極的に情報発信を行って参ります。医学部ホームページのリニューアル、英文ホームページの作成、徳島大学や研究部ホームページとのリンク、定期的(年3回 4月、8月、12月発行)な医学部だより発行を心がけたいと思います。(委員長:福井義浩)

発行者 医学部長 曾根三郎

編集委員長 広報委員長 福井義浩

編集委員 広報委員 足立昭夫、武田憲昭、大下修造、太田房雄、吉永哲哉、森口博基、井上展啓。

医学部だよりへのご意見・ご要望は、木村浩子(第1総務係) hkimura@jim.tokushima-u.ac.jp までお願いします。

Tel: 088-633-9118 Fax: 088-633-9431

URL <http://www.hosp.med.tokushima-u.ac.jp/university/servlet/index>